



TITLE:

戦後ノ人口増加政策(二)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

CITATION:

米田, 庄太郎. 戦後ノ人口増加政策(二). 經濟論叢 1916, 3(4): 519-534

ISSUE DATE:

1916-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127098>

RIGHT:

大正五年十月一日發行

京都帝國大學法學科大學

經濟叢論

第四號

第三卷

故法學博士井上密君肖像并哀辭

論說

對露輸出代金決濟方法

國防稅ノ當否(三、完)

代表紙幣ト獨立紙幣(二)

課稅ト獨占價格(二)

戰後ノ人口增加政策(二)

保險本質論(二、完)

雜錄

重子 在外正貨問題ヲ河津博士ニ答フ

公營造物ニ關スル美濃部鐵田松本三博士ノ所論ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ(二)

支那ニ於人口過剩論ノ梗概

移民政策^{上ヨリ}觀タル邦人同化問題

村落共產體ノ發達

らうれー『ミール』學說ノ研究(三、完)

過去^{ニ於}ケル和蘭ノ植民の活動

神惟孝^{ノ事ニ就キ}鈴木券太郎氏ニ答フ

漬物机上觀

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戶 正雄

法學士 作田 莊一

文學士 高田 保馬

法學士 米田 庄太郎

法學士 小島 昌太郎

法學博士 神戶 正雄

法學博士 福田 德三

鈴木 券太郎

山本 美越乃

法學士 本庄 榮治郎

商學士 大塚 金之助

山本 美越乃

瀧本 誠一

法學士 財部 靜治

(載 轉 禁)

戰後ノ人口増加政策（二）

米田庄太郎

七

ばいる、るるあばりゆう氏ハ餘程以前ヨリ佛國人口ノ減少ノ傾向ニ注目シテ、其禍害ヲ指摘シ、更ニ其傾向ヲ防止スル策ヲ講究セラレ、雜誌上ニ於テ、又小冊子ヲ發行シテ盛カンニ此問題ヲ論述サレテ居ツタガ、千九百十三年即チ開戦ノ前年ニ公ニサレタ「人口問題」(Paul Leroy-Beaulieu, La question de la population, 1913) ニ於テ之ヲ總括シテ組織的ニ論述サレテ居ル。

氏ハ先ヅ佛國ノ人口減少或ハ非民族化ヲ豫防スルニハ各家族ニ於テ少クモ三人ノ子供ヲ養育セネバナラスコトヲ種々ノ方面ヨリ論證セント試ミテ居ル。併シ又之レト同時ニこるべしるノ欲セシ如ク無定限的増殖ヲ獎勵セントスルハ穩當デナイコト、且ツ今日ノ狀態ニ於テ到底之ヲ望ム能ハザルコトヲ論ジ、要ハ各家族ヲシテ三人目ノ子ヲ生ミ之ヲ養育セシムルコトデアルト考ヘ、

「三人目ノ子ガ國ヲ救フ」Le troisième enfant est la salut. ト宣言シテ居ル。是ニ於テカ人口減少ヲ豫防シ、且ツ多少ノ増加ヲ望ムト云フコトハ、ツマリ如何ニシテ各家族ヲシテ三人目ノ子ヲ生マシメ、又養育セシムルヲ得ルカト云フ問題ニ歸着スルノデアル。

氏ハ夫レヨリ先ヅ佛國民ノ産兒力ヲ高メ、第三兒ノ出生ヲ誘致スル爲メニ呈出セラルル空想的ナ又ハ效力ノ少ナイ手段トシテ、子供ノ多キ家族ノ父ニ一定ノ名譽或ハ榮譽ヲ與ヘントスル方法獨身者及ビ子供ノナイ家族ニ對シテ懲罰的ニ特別ナ重稅ヲ課セントスル方法、總テ懲罰的ナ意味ヲ有スル課稅法、傍系者ノ相續稅ヲ大ニ高メル方法等ヲ論評シ、又間接稅ガ國民ノ産兒力ヲ妨害スルト見ル說ノ謬妄ナルヲ論ンジテ居ル。ibid. Livre V, chap. VI 次ニ氏ハ國民ノ産兒力ヲ高メ、且ツ第三兒ノ出生ヲ誘致スル爲メニ吾人ノ有效ニ適用シ得ル手段トシテ、社會衛生及ビ社會道德ヲ論ジテ居ル。氏ハ新シキ社會衛生及ヒ社會道德ガ公權及ビ輿論ニヨリテ確立サル可キ必要ヲ説キ殊ニ近來佛國政府ヤ學校教師ガ宗教ニ對シテ敵對的ナ態度ヲトレルコトノ本問題ノ上カラ見テ甚ダ有害ナルヲ詳論シテ居ル。夫レヨリ又不道德罪惡ノ増進ト戰フコト、新なるさす說ノ傳播ヲ防止スルコト、「男女ノ特別品」ノ製造販賣ヲ嚴禁スルコト、墮胎ヲ嚴罰シテ其禁止ヲ圖ルコト、近來青年者及ヒ幼年者ノ勞働ノ保護セントスル法律ガアマリ極端ニ馳セテ爲メニ勞働者ガ子供ヲ増加シナイ様ニナル恐レアレバ、此點ニ大ニ注意ス可キコト、生活ノ順備ノ爲メニ生活ノアマリニ大ナル部分ヲ費ヤス弊害ヲ除去ス可キコト等ヲ論ジテ居ル。Livre V, chap. VII. 要スルニるるあばりりゆう氏ハ社會衛生及ビ道德ノ改良ヲ以テ出生率増加策ノ出發點デアルト考ヘ、夫レヨリ進ンデ特ニ著シキ效果ヲ奏シ得ル特殊のナ手段ヲ探究セントスルノデアルガ、氏ハ先ヅ其ノ特ニ有效ト考フル手段ヲ左ノ二種ニ大別シテ居ル。一ハ氏ガアマリニ大ナル努力犠牲ヲ要セズ、隨フテ強キ反對ヲ惹起スル恐ナイト考フルモノニシテ、二ハ多數ノ人々ニ對シテハアマリニ突飛ナ考ヘ

ノ如クニ見へ、隨フテ強キ反對ヲ惹起スル恐レアルガ、而モ尤トモ重大ニシテ又尤トモ必要デアルト考フルモノデアル。而シテ第一種ノ手段ヨリ論ジ述メテ居ルガ、其ノ所説ノ大要ハ左ノ如クデアル。

るぶれゝ派ノ人々ハ遺言自由ノ制限ヲ以テ出生率減少ノ唯一原因ノ如クニ論ジ、而シテ無批評的ニ此見解ニ雷同スル人々ハ少ナクナイ。モットモ此事ガ或ル階級ノ人民ニ於テるぶれゝ派ノ云フガ如キ影響ヲ及ボシテ居ルコトハ疑ハレナイガ併シ一般ニ考察スレバ、其影響ハサホド大ナルモノデナイ。第一ニ佛國ノ遺産相續法ハ第十九世紀ノ始メニ制定サレタモノデアルカラ、若シ此制度ガ出生率減少ノ唯一ノ原因デアルトスレバ、其影響ハ其制定後間モナク現ハレテ居ル可キ筈デアル。然ルニ出生率ノ著シキ減少ハ千八百八十年代ノ終リ頃カラ始マツタノデアル。是ニ由リテ見ルモ此制度ガ出生率減少ノ唯一ノ原因デモ、亦主要ノ原因デモナイコトガ分カル。第二ニ英國ノ如キ遺言ノ自由ガ行ハレテ居ル國ニ於テモ、近來著シク出生率減少ノ傾向ガ現ハレテ來タノヲ見レバ、其主要ナル原因ハ遺産相續法ノ如何ニアルノデナイコトハ愈々明ラカデアル。而モ佛國法ノ遺言自由ノ制限ガ些少ナリトモ出生率減少ノ上ニ影響カアルト思ハルレバ、之レヲ適由ニ修正スルコトニハ敢テ異論ハナイ。尙ホ其他遺産相續ニ關スル法律條例等ニシテ出生率減少ノ上ニ直接間接ニ影響ヲ及ボスト思ハルモノハ少ナクナイカラ、此等ハ夫レ適當ニ修正スルコトが必要デアル。要スルニ肉親ノ相續者ガ家族ノ財産ヲ完全ニ相續スルコトヲ容易ナラシムル總テノ法律條例ハ出生ノ増加ヲ助長シ、之レニ反シテ此ノ完全ナル相續ヲ障害スル總テノ法律條例ハ出生ノ増加ヲ害スルノデアル。次ニ國家ノ與フル種々ナル特權的地位ヤ補助金獎勵金等ハ總テ正常家族、即チ三人以上ノ子供ヲ有スル家族ノ爲メニ保留シ、只彼等ニノミ之ヲ與フルコトハ、出生獎勵ノ爲メニ有益ナル方法デアルト思ハレル。更ニ正常家族ノ父ニハ複數投票權ヲ與フルコトハ、出生獎勵ノ爲メニ一般ノ人心ニ與フル影響決シテ些少デアルマイト思フ。ツマリ總テノ選舉ニ於テ、獨身者ヤ子供ノナイ既婚者ニハ只一票ノ投票權シカ與ヘズ、又一人又ハ二人ノ子供ヲ有スルモノニハ二票ノ投票權ヲ與ヘ、而シテ三人以上ノ子供ヲ有スルモノニハ三票ノ投票權ヲ與ヘルト云フカ如キ制度ヲ設定スルノデアル。モットモ政治上ノ關係カラ見テカカル選

舉法ニ反對スル人々ハ少ナクアルマイ、又多少政治上ノ弊害ヲ生ズルカモ知レナイ。併シカカル人々ハヨロシク佛國民ノ今日ノ人口的立場ヲ反省ス可キデアル。若シ此儘ニ放任シテ置ケバ數代ノ後ニハ佛國民ハ地球上カラ消失シテ仕舞フ危險ニ迫ラレテ居ルノデアル。何ヨリモ先ヅ大切ナ事ハ第三兒ノ出生ヲ促カシテ佛國民ノ消滅ヲ豫防シ、其存在ヲ持續スルコトデハナイカ。

livre V, Chap. VIII.

るるあ、ばーりゆう氏ハ終リニ第二種ノ手段ヲ「佛國ノ出生率ヲ高メ、又ハ其減少ヲ停止スル爲メニ必要ナル犠牲」ト題シテ詳シク論述シテ居ル。ヤハリ其大要ヲ述フレバ左ノ如クデアル。

第二種ノ手段トシテ先ヅ注目ス可キハ兵役ノ輕減又ハ免除デアル。兵役ノ負擔ハ總テノ階級ニ於テ租税ノ負擔ヨリモ一層簡人的ニ又強ク感ゼラレルモノデアル。サレバ若シ正常家族、即チ三人以上ノ子供ヲ有スル家族ノ成員ガ兵役ニ於テ或特權ガ與ヘラルルナラバ、其ノ第三兒出生ヲ促ガス效力ハ大ナルモノデアラウト思フ。然ラバ正常家族ノ成員ニ對シテ如何ナル特權ガ與ヘラル可キカト云フニ、ツマリ正常家族ノ子供ニハ現役二年チ一年ニ減ジ、又正常家族ノ父ニハ豫備及ビ後備ノ兵役ヲ全ク免除スルト云フガ如キ方法ヲ用ユルコトデアル。而シテ之レニ反シテ不正常家族ノモノノ現役二年チ一年半ニ増加スレハ一層妙デアル。カカル政策ニ對シテハ軍隊ノ效力ヲ減弱セシムルト云フ點カラ見テ反對スル人々モアブラウガ、併シ佛國民ガ數代ノ後ニ消滅スルカモ知レナイト云フ大危險ニ對シテハ、カカル反對ハ意味ナナサナイ。livre V, Chap. IX.

次に政府が一般ノ人心ノ上ニ強キ印象ヲ與ヘ、出生ニ關シテ今日行ハルル氣風ヲ一變スル爲メニ用ユ可キ甚ダ有效ナル一方ガアル。夫レハ官公吏ニ就職スル途チ只正常家族ノ成員ノミニ開クコトデアル。ツマリ正常家族ノ成員ニ非ラズバ官公吏ニ任命シナイコトニスルノデアル。元來佛國ノハ官公職ヲ大ニ尊ビ、官公吏ニナリタガ爾強キ傾向ヲ有ツテ居ル。官公職ニ對シテハ一種ノまにあチ有ツテ居ル。サレバ此傾向、此まにあチ利用シテ出生率ノ増加ヲ圖ルコトハ甚ダ有力ナ方法デアラウト思フ。併シカカル方法ハ正常家族ニ屬シナイ有爲堪能ナル人士ヲシテ國家ノ爲メニ盡クサシムル有力ナル途ヲ塞グカラ、國家ノ爲メニ喜ブ可キコトデナイト反對スル人々ガアラウ。併シカカル人士ハ必ズシモ官公吏トナラナイカラトて國家ノ爲メニ盡ク

シ得ル途ハイクラモアル。又官公職ニハ何モ別段ニ天才ヲ要シナイ、普通ノ才能ヲ健全ニ具ヘテ居レバ夫レテ充分デアル。併シカナル方法ハアマリニ極端ニ走スルモノデアルト考ヘル人々ガ多ケレバ、各種ノ官公職ニ要スル人員ノ百分ノ五ハ非凡ナオ能アル非正常家族員ヨリ採用スルコトシテモヨイ。余輩ハ上述ノ官公吏任用法ガ一日モ早ク實行サレンコトヲ希望スルガ、併シ現任官公吏ノ既得權ハ勿論尊重セザバナラナイ。尙ホ明日ヨリ、或ハ今日ヨリモ直チニ實行シ得ラルル方法ニシテ、其ノ效力ガ決シテ少々デナイト思ハルモノガアル。(勿論上述ノ方法ヨリハ效果ハ少クナイト思フガ)。夫レハ官公吏ノ増俸ヲ真正常家族ノ父母タルモノノミニ限ルコトデアル。三人以上ノ子供ヲ有スルモノニ非ラズハ増俸シナイコトニスルノデアル。然シ之レモ直チニ實行シ難イトスレバ、差シ當リ左ノ方法ヲ採用スルガ必要デアル。即チ先づ獨身者ノ俸給ハ百分ノ三十減少シ、次ニ子供ノナイ既婚者ノ俸給ハ百分ノ十減少シ、次ニ一人ノ子供ヲ有スルモノハ現俸ノママニ据ヘ置キ、而シテ夫レ以上子供ガ一人殖ヘル毎ニ俸給百分ノ十ヲ増スコトデアル。Lyre V, Chap. X.

終リニるるあ、ぼーりゆう氏ハ尤トモ有效ナル一方法トシテ、第三兒或ハ夫レ以上ノ總テノ子供ノ出生スル場合ニ、一定ノ賞與金ヲ與フル方法ヲ論述シテ居ル。氏ハ此ノ賞與金ノ總額ヲ五百ふらんと見積リ、其ノ内三百ふらんハ出生ノ當月ニ與ヘ、殘額二百ふらんハ其ノ年ノ終リニ與フコトニスルガヨイト云フテ居ル。而シテカカル賞與金制度ノ效果トシテ、第一ニ正常家族ハ三人或ハ夫レ以上ノ子供ヲ養育ス可キモノデアルト云フ眞理ヲ、國民ノ精神ニ深く印象スル道德的結果ヲ生ズルコト、及ヒ第二ニ直接ニ出生ノ増加ヲ促ガスコトヲ説イテ居ル。尙ホ氏ハ國家ノ與フル此賞與金ノ外ニ地方團體ガ物品又ハ現金ニテ百ふらんグラヒマデノ賞與金ヲ與フルコト、及ビ出生者ガ雇人又ハ其ノ妻デアル場合ニ會社又ハ傭主ヨリシテ相當ノ手當ヲ與フルコト等ガ行ハルレバ、此方法ノ效力ガ一層増大スルヲ説イテ居ル。然ラバ今佛國政府ガるるあ、ぼーりゆう氏ノ案ヲ

實行スルトセバ、之レガ爲メニ毎年如何程支出セネハナラヌカト云フニ、千九百十年ノ人口狀態ヲ基礎トシテ同氏ノ計算スル處ニヨルト、一億八千七百萬ふらんノ巨額ニ達スルノデアル。而シテ是レカ爲メニ其ノ實行ヲ不可能ト考フル人々ハ多イガ、同氏ハ佛國民ノ滅亡ヲ防グガ爲メニハ、コレグラヒノ犠牲ハアマリ高價トハ云ヘナイト答辯シテ居ル。且ツ氏ハ佛國政府ガ家畜ノ増殖ヤ蠶ノ繁殖ノ爲メ、其他種々ノ目的ノ爲メニ年々巨額ノ補助金ヲ支出シテ居ルコトヲ示摘シ、假令此等ノ獎勵金ヤ補助金ヲ停止シテモ、人口ノ維持、佛國民ノ保存ノ爲メニ獎勵金賞與金ヲ支出スルノ必要ナルヲ論シテ居ル。最後ニ氏ハ以上論述シ來レル處ヲ總括シテ、社會的衛生及ヒ道德ノ改造ノ外ニ眞實ニ成功ノ機會ヲ有スル救済法ハ(一)正常家族ノ成員、即チ三人又ハ夫レ以上ノ子供ヲ有スル家族ノ父母及ビ其ノ子供ニノミ一切ノ官公職ヲ保留スルコト、及ヒ(二)第三兒及ヒ夫レ以上ノ子供ノ出生ニ對シテ賞金ヲ與フルコトノ二方法デアルト結論シテ居ル。Livre V, Chap. X.

以上述べ來リシ處ニヨリテ、既ニ戰爭前ニ於テ尤トモ眞面目ニ又熱心ニ人口維持策或ハ増加策ヲ講究シテ居ツタるるあ、ばーりゆう氏ノ説ハ大體上如何ナルモノデアルカハ理解サレヤウト思フガ、要スルニ氏ハ人心ヲ感化スル方法ニハ、恐怖心ニ訴フルモノト、希望心ニ訴フルモノトノ二種アルガ、後者ノ效力ハ遙カニ前者ノ效力ニ勝ルト云フ見解ヨリシテ、租稅政策ノ如キ恐怖心ニ訴ヘル強制的ナ方法ハナルダケ之ヲ避ケ、而シテ希望心ニ訴ヘ、人々ヲシテ自カラ進ンデ第三兒或ハ夫レ以上ノ子供ノ出生ヲ企ツルニ至ラシムル方法ヲ、出來ルダケ十分ニ實行セントスルノデアル。是レ同氏ガ先ヅ出生ニ關スル現今ノ佛國人ノ道德的思想及ヒ感情ノ改良ヲ圖ルト云フ根

本のナル方法ニ次デ實際上尤トモ有效ナル方法ハ、上ニ述ベシガ如キ官公吏任用法及ビ出生賞與金制度デアルト考ヘル所以デアル。

今開戦前ノ佛國民間ニ於テ人口出生率減少ノ傾向ガ著シク進行シテ居ツタ尤トモ根本的ナ原因ハ、彼等ノ社會道德的及ヒ衛生的思想并ニ感情デアツタノデアルカラ、若シ目下ノ戰爭ノ影響ニヨリテ戦後此思想及ビ感情ガ根本的ニ改造サレルナラバ、自カラ出生率ガ増加シ又人口ガ増加シテクルコトハ疑ハレナイ。併シ若シ此改造ガ行ハレナイトスルナラバ、るるあ、ぼーりゆう氏ガ尤トモ有效ト信ズル人口増加手段モ實際上ドレダケノ效果ヲ奏スルカハ甚ダ疑ハシイノデアル。且ツ戦後佛國政府ガ非常ナル財政困難ノ狀態ニ陥ルト思ハル場合ニ、果シテ出生賞與金ノ爲メニ巨額ノ經費ヲ支出スルコトガ出來ルデアラウカ、又之ヲ敢テスルデアラウカハ、疑問デアル。併シ戦後何ヨリモ大切ナコトハ人口ノ恢復デアツテ、何ヲ措テモ先ヅ之ヲ圖ラネバナラヌカラ、如何ナル犠牲ヲ拂フテモ出生賞與金制度ノ如キモノヲ設定スルデアラウトモ推察シ得ラレル。而シテ又カカル制度ハ佛國民ノ社會道德的及ヒ衛生的思想感情ノ改造ノ上ニ少ナカラヌ影響ヲ及ボスデアラウトモ考ヘ得ラレル。併シるるあ、ぼーりゆう氏ノ主張スルガ如キ方法ヨリモ、一層實行シ易ク、且ツ效果ノ勝レル方法ハナイモノデアラウカ。他ノ學者ノ主張スル手段ハ如何ナルモノデアルカ。彼等ノ主張スルモノハ之ヲ同氏ノ夫レニ比較シテ如何ナル價值ヲ有スルカ。余ハ次ニ先ヅヤハリ開戦前ニ於テ同氏ト相并ンデ人口増加策ヲ熱心ニ講究シ、且ツ自カラ卒先シテ實際運動ヲモ起シテ居ツタじやつく、べるちよん氏ノ説ヲ調ラベテ見ヤウト思フ。而シテ夫レヨリ更ニ開

戦後ニ現ハレタル二三ノ説ヲ吟味スルコトトシタイト思フ。

八

サキニ述ベシ如ク、じやつく、べるちよん氏モヤハリ開戦前ヨリシテ既ニ人口維持策或ハ増加策講究ノ必要ヲ盛カンニ唱道シ、且ツ自カラ眞面目ニ熱心ニ之ヲ講究シテ居ツタ人デアル。更ニ氏ハ千八百九十六年ニサキニ舉ゲシ *L'Alliance nationale pour l'accroissement de la population française* ヲ設立シ、其ノ會長トシテ盛カンニ運動サレテ居ツタノデアル。然ラバ氏ハ如何ナル手段ニヨリテ佛國ノ人口ヲ維持シ或ハ之ヲ増加セントスルノデアルカ。氏ハ千九百十一年ニ公ニサレタル著作^{*}ノ中ニ之ヲ組織的ニ説述サレテ居ルガ、左ニ其大要ヲ述ベテ置ク。

氏ハ先ヅ佛國ノ人口ガ目前ニ段々減少シ行ク傾向ヲ呈シツツアルニ、之レニ對シテ何等ノ策ヲモ講セズ、又之ヲ講ズルモ無益デアルトテ、成行ニ任セテ佛國民ノ滅亡ヲ待ツガ如キ態度ヲトルハ、實ニ愚デアル、否ナ罪惡デアルト絶叫シテ居ル。而シテ夫レヨリ、人口減少ノ原因ハ無數デアツテ、其ノ何レモ單獨デ現ニ見ルガ如キ結果ヲ生ジテ居ルノデハナク、彼等ノ作用ノ合成果トシテ現ニ見ルガ如キ結果ヲ生ジテ居ルノデアルカラ、之ヲ防止スルニ就テモ亦無數ノ手段ガ工夫シ得ラルルガ、何レモ單獨デハ充分ナル效果ヲ齎ラシ得ルモノデナク、總テ彼等ヲ併用スルノ必要ナルコトヲ説イテ居ル。併シ其等ノ諸手段ヲ詳シク論述スルニ先ダチ、立法的手段ニヨリテ人口ノ増加ヲ圖ルハ無益デアルト主張スル人々ガ、其歴史の證據トシテ呈出スル諸事實ガ果シテ論者ノ云フガ如キモノデアルヤ否ヤヲ批評シテ、以テ立法的手段ニヨリテ人口ノ増加ヲ圖ルコトノ可能

* Jacques Bertillon, La dépopulation de la France. Ses conséquences.—Ses causes. Mesures à prendre pour la combattre, 1911.

ナルヲ歴史上證明セント試ミテ居ル。而シテ特ニ羅馬おーぎゆすと皇帝ノ制定シタル *La loi Julia* 及 *La loi poppia popoea* ノ結果ヲ詳論シテ居ル。此法律ハ一般ニ何等ノ效果ヲモ齎ラサナカツタモノト信ンゼラレテ居ルノデアルガ、べるちよん氏ハ種々ノ方面ヨリ穿鑿シテ、決シテソウデナカツタコトヲ證明セント試ミテ居ルノデアル。即チ實際上啻ニ人口ノ減少ヲ防止セルノミナラズ、更ニ多少ノ増加ヲモ生ゼシコトヲ證明セント企ダテ居ル。併シるるあ、ばーりゆう氏ノ批評セシ如ク^{*}べるちよん氏ノ論證ハアマリ充分デハナイノデアル。

べるちよん氏ハ夫レヨリ先ヅ氏が空想的救済法 *Remèdes illusoirs* ト稱スル諸手段ヲ簡單ニ論評シテ居ルガ、氏ハカカル名稱ノ下ニ包括シテ居ル諸手段ヲ大體上左ノ四種ニ類別シテ居ル。(1)諸種ノ社會改良、(2)婚姻數ノ増加、(3)無意的不妊娠ノ減少、(4)死亡率ノ減少。要スルニ氏ハ此等ノ諸手段ノ中ニハ直接又ハ間接ニ多少ノ效果ヲ生ズルモノアルヲ認ムルガ、併シ何レモ重要視スルコトハ出來ナイト考ヘルノデアル。而シテ氏ハ自カラ特ニ有效ナル手段 *Des mesures efficaces* ト考フルモノニ就テ詳細ニ論述シテ居ル。

氏ハ先ヅ人口ノ減少ヲ防止スル爲メニ佛國民ノ精神ニ注入セネバナラヌ倫理的原則トシテ、「各人ハ祖國ヲ防衛スル義務ヲ有スルト正シク同様ニ祖國ノ持續ニ貢獻ス可キ義務ヲ有ツテ居ル」ト云フ思想ヲ樹立シ、是レ實ニ今日ノ佛國民ノ忘レタル倫理の眞理ニシテ、今ヤ何ヨリモ第一ニ彼等ノ精神ニ注入セネバナラヌモノデアルト論ジ、而シテ此思想或ハ信念ヲ彼等ノ精神ニ深く注入スルガ爲メニハ、如何ニ巧妙ヲ極ムルモ辨論ダケテハ充分デナイ、ドウシテモ直接ニ箇人のニ彼

* Laquestion de la population, P. 425.

等ノ各々ニ觸レ、彼等ガ總テ深刻ニ感銘セラルル明白ナル事實ニ訴ヘネバナラヌト主張シテ居ル。而シテ氏ハ右ノ信仰或ハ思想ヲ先ヅ指導の原則トシテ樹立シテ置テ、夫レヨリ順次ニ之ヲ應用シテ以テ、人口ノ減少ヲ防止スルニ有效ナル手段ヲ講究セントスルノデアル。

(1) 財政法規ニ於ケル該原則ノ應用、

べるちよん氏モ財政政策殊ニ租稅政策ニヨリテ人口ノ減少ヲ防止セントスル手段ハ尤トモ有效ナルモノデアルトハ考ヘナイガ、併シ又決シテ輕視ス可カラザルモノト考ヘテ居ル。而シテ氏ノ論ンズル處ニヨレバニ子供ヲ養育スルト云フコトハ租稅ノ一種ト見做サネバナラヌ。租稅ヲ拂フト云フハ、ツマリ國民全體ノ利益ノ爲メニ金錢上ノ犠牲ヲ拂フト云フコトニ外ナラナイガ、然ルニ今父ガ子供ヲ養育スルト云フコトハ正シク國民全體ノ利益ノ爲メニ金錢的犠牲ヲ拂フコトニナルノデアル。而シテ該家族ガ正當ニ此租稅ヲ拂フ爲メニハ少クモ三人ノ子供ヲ養育セネバナラヌ。サレバ有意的ニセヨ又ハ無意的ニセヨ、三人ノ子供ヲ養育シナイ家族ハ、國民ノ將來ニ對シテ充分ナル犠牲ヲ拂フテ居ラナイノデアル。モットモ三人ノ子供ヲ生マウト生ムマイトハ、箇人ノ自由デアル。併シ三人ノ子供ヲ生マナイ家族ハ、之レカ爲メニ賠償金ヲ拂ハネバナラヌ。然ルニ之レニ反シテ、三人以上ノ子供ヲ生ミ養育スル家族ハ、正當ナル義務以上ヲ負擔スルモノデアアル。サレバカカル家族ガ之レガ爲メニ生活ノ困難ヲ生ズル場合ニハ(而シテカカル場合ハ甚ダ多イノデアル)國家ハ其ノ損害ヲ賠償セテバナラヌ。而シテ之レガ爲メニハ先ヅ子供ノ數ニ比例シテ租稅ヲ輕減スルト云フ主義ハ有益デアラウト思フ。此主義ハ從來幾多ノ大藏大臣ガ之ヲ採用セント試ミタモノデアアルガ、併シ何レモ何故力之ヲ實行スルコトヲ躊躇シタダ。ソコデべるちよん氏ハ此主義ヲ徹底的ニ應用スルコトノ可能ナルヲ證明センガ爲メニ、詳細ナル財政的研究ヲ試ミテ居ル。Page 271. 但シ右ノ租稅主義ハ人口減少調査委員會ニ於テふたゞいる氏ノ現案ニ基イテ其ノ採用ヲ決議セシモノデアアル。

べるちよん氏ハ夫レヨリ更ニ「各人ハ祖國ヲ防衛スル義務ヲ有スルト正シク同様に祖國ノ持續ニ貢獻スル義務ヲ有ツテ居ル」ト云フ原則チ、人稅、住居稅、營業稅、遺産相續稅等ニ應用シテ、人口ノ減少ヲ防止スル手段ヲ精細ニ論究シテ居ル。

(2) 兵役ノ義務ニ於ケル該原則ノ應用、

血稅ハ直稅ト同シ原則ニ從フ可キモノデアアル。然ルニ現行ノ徵兵令ハ子

供ノ多イ家族ヤ早ク子ヲ有テルモノニ對シテ、甚ダ殘酷ナ又不健全ナ壓迫ヲ加ヘテ居ル。例ヘハ只一人シカ子供ヲ有シナイ家族ハ只一度シカ血稅ヲ拂ハナイノニ、五人ノ子供ヲ有スル家族ハ、既ニ其ノ五人ノ子供ヲ養育スルト云フ點ニ於テ甚ダ重キ犧牲ヲ拂フテ居ル上ニ、更ニ五度血稅ヲ拂フコトニナツテ居ル。又兵役年齡ニ達シナイモノガ結婚シテ子ヲ有ツテ居ル場合ニハ、其兵役ニ服スル間妻子ハ甚ダ悲慘ナル生活狀態ニ陷ルコトハ、屢々吾人ノ目撃スル處デアル。血稅ハ總テノ他ノ租稅ト同ジク納稅者ノ能力ニ應ズ可キモノデアル。其ノ生活ノ二ヶ年間ヲ自由ニ使用シ得ル能力ハ、獨身ノ壯丁ト妻子ヲ養フ義務アル家族ノ父タルモノトノ間ニ大ナル差異ガアル。嘗テ高等教育ヲ受ケタルモノニハ、兵役ニ關シテ一定ノ特權ガ與ヘラレタ。而シテ其ノ影響トシテ高等教育ヲ受クルモノノ數ガ非常ニ増加シタコトガアルガ、今子供ヲ有スルモノニ對シテ同様な特權ガ與ヘラレンニハ、ヤハリ早ク結婚シテ子供ヲ造ルモノノ數ガ大ニ増加シ、人口減少ヲ防止スル目的ニ對シテ貢獻スル處ガ少ナクアルマイト思フ。今日ノ徵兵令ニ於テモ種々ノ場合ニ子供ノ有無ヲ其數ノ大小ニ從フテ多少ノ斟酌ハ加ヘラレテ居ル様デアル。併シ吾人ハ之ヲ原則トシテ樹立シ、普遍的ニ應用スルコトガ必要デアルト信ズルノデアル。而シテ吾人ガ此問題ニ付テ大ニ注意スル價值アルハ白耳義ノ新徵兵令デアル。此ノ法律ハ實ニこれにほる第二世ノ光榮アル治世ノ最後ノ光ヲ放テルモノニシテ、同國ニノミ限ウル可キモノテナク、世界一般ニ行ハル可キモノデアル。然ラバ其新徵兵令トハ如何ナルモノデアルカト云フニ、ツマリ兵役ノ義務ヲ一家族ニ一人ノ割合ニテ課スルコトデアル。例ヘバ三人ノ子供ヲ有スル家族ニ於テモ、其中ノ一人ガ兵役ニ服スレバ、他ハ其ノ義務ヲ免除サルコトニナルノデアル。べるちよん氏ハ此徵兵令ハ更ニ各國ノ軍備縮少ヲ實現スル上ヤ、都市移住ヲ防止スル上ニモ根本的ニ甚ダ有益ナル影響ヲ及ボスモノナルヲ大ニ力説シテ居ル。殊ニカカル法律ハ兵役ニ關スル國民ノ負擔ヲ尤トモ平等ニスル尤トモ正義ノ原則ニ適ナフモノデアルコトヲ高調シテ居ル。

(3) 子供ノ多イ家族ニ對スル賠償

子供ノ數ニ應ジテ租稅ヲ輕減スル主義ガ大ニ實行セラレ、直稅ノ總テニ應用サレタトシテモ尙ホ子供ノ多イ家族ガ間稅、殊ニ關稅及ヒ入市稅ニヨリテ受クル損害ヲ賠償スルコトハ出來ナイ。サレバ上ノ議員レ一氏ハ人口減少調査委員會ヲシテ左ノ決議ヲナサシメタノデアル。曰ハク、租稅ノ輕減ハ只直稅ニ關シテノミ行ハルルモノデア

ル而シテ直稅ハ負擔ノ尤トモ輕キモノ、殊ニ貧シキ家族ニ對シテ然ルモノデアルカラ、間稅及ビ消費稅ヨリ來ル一層重大ナル負

擔持輕減スル爲メニ、三人以上ノ子供ヲ有スル家族ノ主人ニ一定ノ手當ヲ與ヘテハトラヌ」ト。此ノ問題ハ目下政府ノ講究シテ居ルモノデアル、又或ル府縣ニ於テハ一部分實行サレテ居ルモノデアル、且ツ既ニ千七百九十三年六月二十八日ノ法律ニ於テ規定サレテ居ルモノデアルガ、吾人ハ其ノ一日モ早ク全國ニ於テ一般の組織的ニ實行サレンコトヲ希望スル。

(4) 第三人目ノ子供ノ出生ニ對シテ賞金ヲ與フルコト 是レ多クノ人々、殊ニるるあ、ばーりゅう氏ノ熱心ニ

主張シテ居ルモノデアツテ、(B)ニ述ヘシ主義ト同シ精神ノモノデアル。併シばーりゅう氏ノ案ニ對シテ吾人ガ直チニ賛成ノ意ヲ表スルヲ躊躇スルノハ、其ノ支出金額ノ多大ナルガ爲メデアル。余輩ノ提案ノ大多數ハ國庫ニ對シテ何等ノ特別ノ負擔ヲカケナイ、又之ヲカケルモノモ其金額ハ大シタモノデナイノデアル。而シテ余輩ハ茲ニハ只工業的又ハ商業的會社ニ於テ其ノ雇人ニ對シテ出生賞與金制度ノ設定セラレンコトヲ望ムニ止メテ置ク。

(5) 子供ノ祭——子供ノ多イ家族ニ對スル尊敬 子供ノ多キ家族ヲ保護スルダケデハ充分デナイ、更ニ之ヲ尊敬

セテバナラヌ。否ナ大ニ之ヲ尊敬セテバナラヌ。然ルニ佛國ニ於テハ彼等ヲ尊敬スル何等ノ方法モ當テ行レタコトハナイ和蘭ヤ日本ノ小供祭ハ佛國人ノ大ニ學ブ可キモノデアル。尙ホ其他種々ナ方法ニテ子供ヲ多イ家族ヲ尊敬スル習慣ノ行ハレテ居ル國ハ少ナクナイ。佛國民ハ其ノ例ニ倣フテ大ニ子供ヤ子供ノ多キ家族ヲ尊敬スル精神ヲ養ハテバナラヌ。

(6) 遺産相續法ノ改正 遺産均分法ガ佛國ノ出生減少ノ原因デアルト、遺言ノ自由ヲ大ニ擴張スルノ必要ヲ主張スル

人々ハ多イガ、併シ夫レダケデハマダ充分デナイ。法定相續法ヲ改正スルコトモ亦必要デアル。要スルニ遺言ノ自由ヲ擴張スルコトト、孫ノ存在ヲ斟酌スル遺産分配法ヲ立テルコトト二者ハ、人口減少防止ノ目的カラ見テ現行ノ遺産相續法ノ上ニ加フ可キ尤トモ重要ナル改正デアル。

(7) 官公職ヲ充分ナル家族ニ保留スルコト 是レ余輩ノ永キ以前ヨリ主張シ來レル手段ニシテ、るるあ、ばーり

ゅう氏モ亦殊ニ高調サレテ居ルモノデアル。

(8) 家族ノ手當ヲ給與スルコト 子供ノ多キ官公吏其他會社員ニ家族ノ手當トシテ其子供ノ數ニ應ジテ特別ノ手當ヲ

結與スルコトが必要デアル。

(9) 家族ノ父タルモノノミ退隱料ヲ給與スルコト

勞働者退隱料法案ニ就テ人口問題上カラ見テ修正ヲ加フ可キ點ガアル。全體四人又ハ夫レ以上ノ子供ヲ養育セル勞働者ニアリテハ、彼等ハ老後ノ順備ヲナス餘祿ガナカツタト考ヘラレル。而シテ其等ノ子供ハ當然老後ノ彼等ヲ扶養ス可キモノデアルガ、併シ實際上然ラザル場合ガ多イ。サレバ國民ハ彼等ガナセシ動勞ノ爲メニ彼等ノ老後ノ生活ヲ保證セザバナラス。之レニ反シテカノ全ク或ハ殆ンド全ク家族ノ負擔ヲ有セズシテ、而モ自己ノ老後ノ謀ヲナサザリシモノハ、一般ニ怠惰デアルカ、不徳デアルカ、又ハ考ヘノナイモノデアル。吾人ハ彼等ヲ救助スルコトニハ異論ハナイガ、彼等ニ退隱料ヲ受クル權利ヲ認ムルコトハ出來ナイ。退隱料或ハ養老年金ハ只家族ノ父タルモノノミ給付セラル可キモノデアル。而シテ元來佛國人ハ退隱料或ハ養老年金ニ對シテハ強キ牽引力ヲ感ズルモノデアルカラ、カカル養老年金法ヲ制定スルニ於テハ其ガ出生ヲ奨勵スル影響ハ甚大ナルモノデアラウト思ハレル。

尙ホ若クシテ三人以上ノ子供ヲ有スル寡婦ニ對シテ有力ナル扶助ヲ與フルコトハ少ナクモ此レマデ述べ來レル諸方法ト同様ニ重要デアル。

べるちよん氏ハ夫レヨリ更ニ補助的手段トシテ國家ノ與フル一切ノ特權恩惠等ハ先ヅ第一ニ子供ノ多キ家族ニ與フ可キモノナルコト、子供ノ多キ家族ノ住居ニ付テ特別ナル便宜ヲ圖ル可キコト、及ビ兒童ノ保護等ヲ論ジ、最後ニ子供ノ多キ家族ノ政治的權利ヲ論ンジテ居ル。而シテ氏ハ子供ノ多キ家族ノ政治的權利ヲ増シ強メルコトニ甚ダ重要ナル意義ヲ認メテ居ル。氏ガ始めニ樹立セル「各人ハ祖國ヲ防衛スル義務ヲ有スルト正シク同様ニ祖國ノ持續ニ貢獻スル義務ヲ有ツテ居ル」ト云フ原則ヲ深く國民ノ精神ニ注入スルト云フコトハ、結局子供ノ多イ家族ニ充分ナル政治的權利ヲ與ヘルコトニヨリテノミ充分ニ成就サレルデアラウトマデ言明シテ居ル。然ラバ氏ハ

其等ノ家族ノ政治的權利ヲ如何ニシテ増シ強メントスルカト云フニ、氏ハ先ヅ徹底的ニ普通選舉權ヲ實行セントスルノデアル。即チ男女老若ノ別ナシニ總テニ選舉權ヲ與ヘントスルノデアル。併シ如何ニシテ子供ガ其選舉權ヲ行使スルカト云フニ、ツマリ其法律上ノ保護者タル父母ヲシテ之レニ代ツテ其權利ヲ行使セシメントスルノデアル。此クテ三人ノ子供ヲ有スル父ガ若シ女子ガ男子ト同等ニ選舉權ヲ行使スルヲ認メラナイ場合ニハ、自己ト妻子トヲ合セテ五票ノ選舉權ヲ有スルコトニナルノデアル。而シテ此ノ如キ普通選舉法ガ實行サレルニ於テハ一國內ノ選舉權ノ多數ヲ占有スルモノハ三人以上ノ小供ヲ有スル家族ノ父トナリ、代議士ハ特ニ彼等ノ利益ヲ圖ルニアラズハ到底選舉サレナイコトニナル。今日ハ子供ノ多イト云フコトハ何等政治的權利ニ關シテ特別ナ意味ヲ有シナイカラ、代議士候補者ハ彼等ヲ全ク眼中ニ置イテ居ラナイ。是レ今日議會ニ於テ子供ノ多キ家族ノ利益ハ全ク無視サレテ居ル所以デアル。今日ノ代議士ノ頭ニハ家族ノ利益ヲ圖ルト云フ念ガ全ク存在シナイ。彼等ノ決議スル法案ガ家族ノ發達ノ上ニ如何ナル影響ヲ及ボスカハ彼等ノ毛頭モ考ヘナイ問題デアル。併シ若シ子供ノ多キ家族ガ一國ノ選舉權ノ多數ヲ占有シ、彼等ノ利益ニ反スルカ如キ政見ヲ抱ク代議士候補者ハ到底選舉サレル機會ガナイト云フ様ナ選舉法カ實行セラルルニ於テハ、子供ノ多イ家族ノ勢力ハ大ニ増シ、彼等ハ大ニ尊敬セラレ、隨フテ國民一般ニ子供ヲ多ク造ラントスル念ガ勃興スルデアラウト思フ。此クテ一國ノ人口カ維持セラレ、否ナ更ニ少クモ多少ノ増加ヲ見ルコトニナルデアラウト信ズル。

却説開戦前ノ佛國ニ於テ盛カンニ人口維持策或ハ増加策ヲ講究スルノ必要ヲ説キ、且ツ自カラ熱心ニ是レガ研究ニ當テ居ツタるゐるあ、ばーりゆう氏及ビじやつく、べるちよん氏ノ説ハ大體上如何ナルモノデアルカハ、以上述べ來リシ處ニヨリテ、明ラカニシタト思フガ、今両氏ノ説ヲ比較シテ考察シテ見ルト詳細ニ於テハ色々異ナツテ居ルガ、大體上相一致シテ居ツテ、開戦前ニ於ケル人口増加策ノ根本的思潮ハ大體上如何ナルモノデアリシカヲ明ラカニ察知スルコトガ出來ルノデアル。両氏共ニ出來ルダケ強制のナ方法ハ避ケ、先ヅ國民ノ倫理的意識ヲ根本的ニ改造スルコトニヨリテ、國民ヲシテ一般ニ自カラ進ンデ子供ノ出生ヲ歡迎セシメ、以テ自カラニ出生率ノ増加ヲ誘致セントスルノデアル。而シテ是レカ爲メニ子供ノ多キコトニ伴ナフ一切ノ生活上ノ壓迫ヲ除キ去リ、且ツ多クノ子供ヲ養育スルコトニヨリテ國家ノ爲メニ盡クス勤勞ノ大ナルニ相應スル報酬ヲ收メシメントスルノデアル。但シ両氏共ニ無暗ニ子供ヲ殖ヤスコトノアマリニ有益デナイコトト、又今日ノ狀態ニ於テ到底之ヲ望ミ難キコトトヲヨク考慮シテ三人目ノ子供ノ出生ヲ獎勵スルコトヲ眼目トシテ居ルノデアル。尙ホるゐるあ、ばーりゆう氏ハ出生ノ増加ヲ圖ルコトハツマリ目前ニ迫マレル佛國民ノ滅亡ヲ豫防スルコトデアルカラ、如何ナル費用モ之レガ爲メニハ惜ム可キモノデナイト云フ様ナ態度デ論議シテ居ルカ、べるちよん氏ハ出來ルダケ國家ノ財政的負擔ヲ増加シナイ範圍内ニ於テ出世ノ増加ヲ圖ラントスル精神デ其ノ手段ヲ講究シテ居ル。而シテ両氏共ニ軍國主義ヲ排斥スル精神ヲ明ラカニ表現シテ居ルト思フ。併シ両氏ノ希望スルガ如キ徵兵令ノ改正ハ目下ノ大戦争ノ如キモノガ起ラナイ場合ニ於テコソ實行シ得ラルルモノナレド、戦

後ニ於テモ尙ホ何時目下ノ如キ大戦争カ起ルカモ知レナイ形勢カ存續スルニ於テハ到底實行シ得ラルルモノデハアルマイト思フ。更ニ戰後佛國ノ財政ガ非常ナル困難ニ遭遇スルニ當テるるあ、ばーりゆう氏ノ提案ノ如キ多大ナル經費ヲ要スルモノノ實行ガ困難デアルノミナラズ、べるちゝん氏ガ開戦前ノ財政状態ニ付テ計算シテ、別ニ大シタ國庫ノ負擔ヲ増サナイト考ヘタ策モ果シテ戰後ノ財政状態ノ下ニ於テ實行シ得ラルルデアラウカ。要スルニ両氏ノ佛國人口維持策或ハ増加策ハ目下ノ大戦争ノ如キモノカ起ラナイト假定シテ立テラレテ居ルモノデアルカラ、現ニ目下ノ大戦争ノ如キモノカ起ツタ場合ニハ根本的ニ修正ヲ加フル必要ガアルノデハアルマイカ。両氏ガ開戦前ノ歐洲ノ状態ヲ背景トシテ立テタ人口維持策或ハ増加策ハ戰後ニ於テモ其儘ニ實行シ得ラルルモノデアラウカ。又實行シテ果シテ效果ヲ奏スルモノデアラウカ。今日ノ大戦争ヲ目前ニ眺ガメナガラ此問題ヲ考究スレバ両氏ノ策トハ異ナレルモノヲ工夫スルノ必要ガ感ンゼラレルノデハアルマイカ。余ハ此等ノ疑問ヲ念頭ニ置イテ是レヨリ開戦後佛國ニ於テ唱ヘラレテ來タ人口増加策ヲ調ラベテ見ヤウト思フ。